

項目	内容
供給	<p>1. 国内 (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会令和4年10月実施)によると、10月の推計実績は処理羽数62,879千羽(前年比99.4%)、処理重量189.8千ト(同100.0%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は2.0%上方修正されれば前年並み、処理重量は前月時点の計画値を1.0%上方修正されれば前年並みとなった。このことより、生産状況は概ね順調であり、暑さが和らぐことで食餌量も戻りつつあることが伺える。また、処理羽数に比べて処理重量の前年同月比が高いことから増体が良かったことが伺える。</p> <p>(2) 11月の処理羽数・処理重量はともに前年をわずかに下回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は北海道・東北地区と近畿・中国・四国地区で、処理重量は北海道・東北地区と近畿・中国・四国地区と南九州地区で前年を下回っているが、他地区では処理羽数・処理重量とも前年を上回っている。10月末に高病原性鳥インフルエンザの農場での発生が岡山県で初めて確認され、11月に処理羽発生が相次いでおり、さらなる各地への拡大が懸念される。(12月8日時点 17道県31例)</p> <p>また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。</p>
	<p>2. 輸入 (1) 財務省11月29日公表の貿易統計によると令和4年10月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+7.1千ト、の53.9千トで、国別ではブラジルが+7.1千ト、タイが+0.2千トとなった。前年同月の実績に対しては2.7千ト増となった。生産量が回復したタイの輸入量が戻り、代替として増やしていた米国産が減少、ブラジル産は増加となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、11月が49.4千ト(前年比85.5%)、12月が51.3千ト(前年比84.6%)となっている。10月実績は前月輸入量より増加、11月以降は前月に比べ減少が予想される。現地オファーが下がり、為替が円高に振れたことでブラジル産・タイ産は値下がりがしている状況。しかし、高病原性鳥インフルエンザの発生が繰り返すなかで国産モモ肉が大幅に不足し、価格も値上がりしている影響を受け、量販店などでブラジル産モモ肉の解凍品を求める動きもあり、輸入品価格はいまも底値との声も聞えてくる。今後の動向に注視したい。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲0.1千トの44.1千トで、国別では中国が▲1.2千ト、タイが+0.9千トとなった。前年同月の実績に対しては+8.9千トとなった。前月比は下回ったが前年比は大きく上回る結果となった。引き続きタイの生産が回復したことにより国内向けオファーは増加傾向。為替の影響で価格に変化が起きる可能性はあるが、現状は前年より上昇している。製造量の増加と為替のバランスにより価格への影響が考えられる。外食については回復傾向ではあるが、新型コロナウイルスが再度感染拡大している状況にあり、影響が出る可能性が考えられる。中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。今後の動向に注視したい。</p> <p>(3) 財務省が11月29日に公表した貿易統計によると10月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より84.3%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より34.0%上昇した。依然として、世界的なコストアップや為替相場の影響により高値が継続、国別ではブラジル産の価格が424円/kg(前月比19円高)、タイ産が498円/kg(同10円高)となっている(国別平均価格)。ブラジル産はコスト高や為替相場の影響はあるが、依然としてデマレージの問題や現地オファーが下がっている状況などにより、市場価格が下がってきていると(300円/kg)が聞かえている。タイ産については製造量が増加し、国内産の不足状況もあり一部タイ産へシフトする動きが聞かえてきている。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。</p>
	<p>3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年10月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.7%の4.6千トとなった。うち国内品は同109.1%の3.9千トと前年を上回り、輸入品については同71.6%の0.7千トと前年を下回った。</p>
帯要	<p>1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年10月の生鮮肉消費(購入)は数量4,525g(前年比103.4%)、金額6,378円(同104.9%)と、数量・金額ともは前年を上回った。鶏肉は数量1,574g(同101.0%)、金額1,534円(同107.7%)・単価97.5円/100g(前年同月+6.2円)と、数量・金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が2,594円(同109.9%)、外食が1,177円(同114.9%)と前年を大きく上回った。前年と比べて低めの気温で推移したことと鍋物等で需要があり、長期化する生活全般に及ぶ物価上昇により、節約志向が働き、他の畜種と比べて比較的安価な鶏肉にシフトしたと考えられる。外食においては、新型コロナ第8波に向かう中ではあるが、行動制限もなく、全国旅行支援や飲食店営業も実施され、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンドも期待され、回復基調にあると考えられる。</p> <p>2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年10月の食品売上高は全店ベースで前年比102.6%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.2%、既存店ベースは同100.7%となった。また、畜産部門の売上高は約1,206.1億円で全店ベース同104.9%、既存店ベース同103.3%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、行動制限がなく、イベントや行楽が再開されたことで、家庭内食品需要の低下傾向は続いているが、10月は商品の値上げが多く、客単価が上昇し売上高は伸びているとのこと。</p> <p>長期化する生活全般に及ぶ物価上昇は「節約志向の受け皿」として、ふたたび肉内食需要を促す可能性も考えられる。畜産部門においては、相場の高騰が続き、買上点数の伸び悩みは続いているが、前年より気温が低く推移した地域を中心に、豚肉や鶏団子など鍋物用の商材の動きがよくなったとのこと。肉内食需要の落ち着きにより加工肉は低迷が続いている。牛肉は国内産、輸入ともに動きが良くないが、鶏肉は国産を中心に回復傾向がみられたとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合調べによると令和4年10月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.7%の4.6千トとなった。うち国内品は同109.1%の3.9千トと前年を上回り、輸入品については同71.6%の0.7千トと前年を下回った。</p>
在庫	<p>1. 令和4年10月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産25.2千ト(前年比72.7%・前月差▲0.6千ト)、輸入品127.5千ト(同117.8%・同+6.3千ト)と合計で152.7千ト(同106.9%・同+5.7千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年11月28日更新)では、10月の出荷量は国産145.2千ト(前年比100.4%・前月差+7.3千ト)、輸入品47.6千ト(同94.2%・同+0.9千ト)と合計で192.8千ト(同98.8%・同+8.1千ト)となった。11月以降の国産在庫については、品薄状況はつついていて、年末商材の消化もあり、引き続き在庫は減少していくと予測する。輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように、11月及び12月は需要期への対応で増加する時期となるものの、米国産は鳥インフルエンザの影響により不安定な輸入状況が続く可能性があることや、前年は国内在庫の減少によりブラジル産の輸入量が多かったこと等から前年を大きく下回る見通しである。11月・12月の出荷量が前年同月を下回ると予測されていることや、前年在庫が少なかつたため、期末在庫は11月・12月とも前年を上回ると予測する。</p>
相場	<p>1. 令和4年11月動向 (1) 令和4年11月の月平均相場は、モモ肉729円/kg(前月差+32円)・ムネ肉396円/kg(同+20円)正肉合計で1,125円/kgと前月を52円上回り、前年同月を173円上回った。モモ肉相場は月初710円、月末は750円となった(昨年は月初616円、月末627円)で11月の上げ。昨年の相場より大幅に上回り、4か月連続で正肉価格が1,000円を超えた。依然として相場高騰する畜産の中では比較的安価な鶏肉に消費者の需要があり、朝晩の冷え込みも強まり、鍋シーズンも本格化し、モモ肉の品薄状態は続いている。また、各地での高病原性鳥インフルエンザの発生により供給量が減少し需給が締まったと思われる。</p> <p>ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、前月から20円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫自体が薄く、鍋商材のつみれ・だんごの材料として使用されるため、ムネ肉も品薄状態は続いている。正肉価格は引き続き高水準で推移していくと思われる。</p>
	<p>2. 見通し (1) 12月の生産量は、前年より若干下回る計画である。しかし、現時点で高病原性鳥インフルエンザの発生が12月8日時点で今季国内31例目まで報告されており、年末及び1月以降への影響が懸念される。今後の拡大が懸念されている。気象庁発表の「向こう1か月の天候の見直し」によると、12月は気温は平年よりも高く、降雪量は平年並みか平年より少ない予測となっている。量販店は鍋シーズンに入り鶏肉は順調に推移している。外食産業についても新型コロナウイルス感染症第8波の影響が懸念されるが、全国旅行支援、飲食店支援策、入国規制緩和による外国人観光客のインバウンドも期待され、回復基調にあると予測される。輸入品の価格は下げ基調であるが、国産品についてはタイなど状況が続き、価格も高水準で推移するものと思われる。</p> <p>以上から、生鮮品及び凍結品ともに需要が高く、供給面でも引き続き不足が予想される中でモモ肉相場は上げの月平均770円、ムネ肉相場は上げの月平均410円と予測する。</p> <p>(2) 直近の販売状況は、朝晩の冷え込みが強まっており、鍋物シーズンが本格化し、生鮮品については順調に推移している。例年であれば最需要期である年末を前に、引き合いは若干中だるみになる時期だが、今年は鳥インフルエンザの影響もあり、品薄状況は続いている。凍結品も依然として品薄状況は続き、高水準の価格で推移している。10月末より国内で高病原性鳥インフルエンザが各地で発生が確認されており、年末年始の供給量の低下が予測される。量販店ではモモ肉の相場が高く品薄のため、ムネ肉や解凍モモ肉(輸入品)で特売を実施しているという話も聞かれる。様々な料金や食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば比較的安価な鶏肉に需要がシフトしていくと考えられ、また、鳥インフルエンザの影響で供給量が低下することが予測されることから、鶏肉の需給はタイトに推移していくと思われる。</p>

実績											
生産状況 <span style="float:right">単位:千羽、千トン、%</span>											
	R4年10月推計実績		R4年11月計画		R4年12月計画		R5年1月計画				
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比			
入雛羽数	68,679	97.5%	63,252	100.1%	70,061	100.1%	65,067	101.4%			
処理羽数	62,879	99.4%	62,850	99.8%	67,739	100.1%	60,878	102.2%			
処理重量	189.8	100.0%	189.6	98.3%	205.1	99.0%	182.8	101.5%			
※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向 <span style="float:right">単位:千トン、%</span>											
	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年5月	42.5	46.2	91.9	42.1	36.0	117.1	84.6	82.2	102.9	50.2	49.8
R4年6月	52.2	42.8	121.9	46.2	40.5	114.2	98.4	83.3	118.1	53.0	47.0
R4年7月	45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0
R4年8月	47.4	46.9	100.9	47.8	44.1	108.5	95.2	91.0	104.6	49.8	50.2
R4年9月	46.8	45.2	103.5	44.3	31.8	139.2	91.1	77.0	118.3	51.4	48.6
R4年10月	53.9	51.2	105.3	44.1	35.2	125.4	98.1	86.4	113.5	55.0	45.0
※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
鶏肉の消費動向 <span style="float:right">単位:グラム、円、%</span>											
	数量			金額			相場(年別・暦年)			単位:円	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比				計	
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9				920	
R4年5月	1,476	1,527	96.7	1,403	1,426	98.4	H26年	626	294	920	
R4年6月	1,433	1,461	98.1	1,375	1,328	103.5	H27年	639	336	975	
R4年7月	1,439	1,440	99.9	1,345	1,265	106.3	H28年	621	255	876	
R4年8月	1,372	1,449	94.7	1,309	1,341	97.6	H29年	626	315	941	
R4年9月	1,492	1,546	96.5	1,386	1,383	100.2	H30年	595	282	877	
R4年10月	1,574	1,559	101.0	1,534	1,424	107.7	R元年	585	243	828	
							R2年	614	269	883	
							R3年	641	313	954	
※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)											
在庫状況(推定) <span style="float:right">単位:千トン、%</span>											
	国産			輸入品			合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年5月	31.2	32.8	95.1	115.7	129.4	89.4	146.9	162.2	90.6		
R4年6月	30.5	34.1	89.4	119.1	121.7	97.8	149.6	155.8	96.0		
R4年7月	28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2		
R4年8月	28.5	34.9	81.7	121.2	111.4	108.8	149.7	146.3	102.3		
R4年9月	25.8	33.8	76.5	121.2	107.6	112.7	147.1	141.4	104.0		
R4年10月	25.2	34.7	72.7	127.5	108.2	117.8	152.7	142.9	106.9		
※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
相場(月別) <span style="float:right">単位:円、%</span>											
	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年7月	637	600	106.2	340	301	113.0	977	901	108.4		
R4年8月	649	583	111.3	354	308	114.9	1,003	891	112.6		
R4年9月	667	580	115.0	364	316	115.2	1,031	896	115.1		
R4年10月	697	603	115.6	376	328	114.6	1,073	931	115.3		
R4年11月	729	619	117.8	396	333	118.9	1,125	952	118.2		
R4年12月	(770)	641	120.1	(410)	340	120.6	(1,180)	981	120.3		
R5年1月	(770)	649	118.6	(410)	330	124.2	(1,180)	979	120.5		
※()は見直し											